

山桜の里 戸赤

研修会で
人が増える
村づくり
ワークショップ

来た人に
どんな気持ちに
なってもらいたいか

『消えそうでも消えない村』
という言葉でも紹介されて
いる戸赤
をなくさ
ないで人
が増える
ようにし
なければ
ならない。
そのため
には来た



村外から管理人を募集
する事業も取り入れら
れるかもしれないなど
のアイデアに期待感が
集まった研修会



「戸赤には何があってどんな村にしていきたいか」村おこしの初心に
帰り活発な意見が出されたワークショップ

人にどんな思いをしてもら
いたいか。戸赤に来るとこん
な気持ち
にならな
れる。こ
ういふ
戸赤な
らでは
の約束
ごと(地
域ブラ

ンド)を発信することが大
切。このための話し合いをも
つと深めてほしい。これは
講師の望月さんが研修会の
まとめとして強調された内
容でした。3月12、13日
住民延べ24人は観光地作
り・人材ネットワーク作り研
修会に参加し、10年の節目
を迎えている村おこしのこ
れからを真剣に考えました。

道の駅あいつでテスト販売 花豆パイに消費者の声を

消費者の声を聞いて商品
改良に役立てようと会津農
林事務所などが企画した道
の駅あいつ(湯川)でのテス
ト販売に花豆パイが出品さ
れ、生産者として戸赤から二
名参加しました。すでに実施
されていた試食会でのアン



「道の駅あいつ」でのテスト販売に渡部(利)・星(隆)が
生産者の立場から参加

ケートの自由意見を紹介し
ます。①4、5、6個入りの箱
でお土産に売るといふのは
いかがでしょうか。②10
0円で今の量の3分の2位
でちょうど良いと思う。③
地域の話を交えてPRする
と効果大だと思います。ア
ンケート結果次号に続く

【木地の学習No.65】**椀の種類** 椀の種類は揃いものとしてヨツワンがある。ヨツワンはオヤワン(飯椀) ヒラ(煮しめなどを入れる椀)、ツボ(豆煮などを入れる椀)が揃ったもので、冠婚葬祭や家の普請、屋根の葺き替えなど大きな行事があったトキに用いる。ヨツワンの中で、オヤワンと吸物椀、そしてそれぞれのふたの四枚を重ねてヨツソロエともいう。ヨツソロエがお膳に出る場合は、それぞれのふたにはおかずが入る。そのほか、おかずを入れる椀にカシワンがある。吸物椀にはカガマル、ヒラカガ、マルガタという種類があり、カガマルは椀のカーブがふっくらした形をしている。またヒラカガは、ふくらみが少ない。形のちがいはあるが、寸法は同じである。汁椀として多く用いられたのがワジマという種類の椀で、これは日常の食事を使う味噌汁椀でふたはない。これらのなかで木地屋が多く生産した木地椀は、カガマルとワジマであったようである。挽物 沿革 以上述べてきたのが、木地椀製作のながれである。近年になって、サラダボールや小さな木鉢なども作る職人も現れるが、主流を占めていたのが何といつても木地椀であった。これに対して、この地方にはもう一つの大きな木地の流れがある。茶櫃、茶盆、茶筒、お膳、テーブルや碁盤の足、とっくりの袴などの家具調度品や日用雑器を作る職人でなかには手のこんだ茶ダンス、たばこ盆などを作る優れた職人も現れている。(会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より) (続く)

NHK-BSで
全国放映へ

暮らしに 息づく 山桜

みつめます。長く
厳しい冬から待ち
わびた春を迎える
人々の思い、東北
の歴史を物語る桜、
風土に生きてきた桜、
地元で愛され敬われ縁を結
んできた桜の物語として全
国放送されます。三月十三
日研修会の後、坂本ディレ
クターと地区住民は、取材
時期や内容などの打ち合わ
せを行いました。



1年がかりの取材計画、今年は雪
が少ないため冬のロケは来年へ
(左端:坂本ディレクター)

「新日本
風土記」
NHK
BS
「山桜」
の山桜が
選ばれる
年春の放
映に向け
取材が始
まりまし
た。東北
の桜の中
で「村内
留不定線」
など戸赤
に暮らす
人たちに
とつての
桜がどの
ように息
づいてい
るかを一
年を通し



戸赤のやまざくら祭り

戸赤のやまざくらを眺めにおいでになった方々をもてなしたいと、毎年開花の時期に合わせて祭りを実施しています。祭り会場では花だけではなく、食を楽しんでいただくために、来場された方々と一緒に楽しめる餅つき体験を実施いたします。

- ◆場所/戸赤集落毘沙門様広場 ◆期間/4/29(金)-4/30(土)
- ◆料金/体験料:一律100円
- ※当日会場で参加費と交換で引換券をお渡しします。
- ◆問/戸赤むらづくり実行委員会事務局 ☎0241-67-2020
- ◆交通/会津鉄道会津下郷駅から車で約20分

左:福島県観光キャン
ペーン冊子より



川が變わって道路が良くなる



れきの
ひとコマ

渡部ツヤ子さん



(ストーリー性のある村づくりのために[No.33]) 福島県内においては早期末から前期初頭に浜通り中通りでは土偶の出現が確認できるが、会津地方では中期以降のものが発見されている。中期以降には立体的な土偶が出現し、柳津町の石正前遺跡(中期)や三島町小和瀬遺跡(晩期)の土偶のように耳飾り表現がみられ、全国から発見される土偶の中には刺青や結髪表現されたものが確認されており、当時の習俗が窺われる。呪術・儀礼など精神生活にかかわるものには安張遺跡の岩版や南郷の村下遺跡の土版のほか、斧型(こうがい)石製品・館岩の岩窓遺跡出土の岩偶や、動物の形を、模したと思われる打製の異形石器などがある。異形石器は只見町窪田遺跡ではオパール製のものが二点出土しており、田島上和田原・寺前・折橋C・宮ノ下の各遺跡からも出土している。特に上和田原遺跡の採集品は、只見赤石製の美しいものである。窪田遺跡では魚類を模したと思われる線刻礫が二点出土している。館岩の岩窓遺跡出土の岩偶は一見石錘に似るがかなりの大きめで、人体各部の表現が確認でき、頭部には赤いベンガラと思われるものが付着している。田島上ノ台遺跡の発掘調査では、縄文中期の腕輪形耳栓が出土しており、古川利意氏は凹石が呪術・儀礼など精神生活にかかわるものであった可能性について論じている。「下郷町史-第7巻通史編(発行・下郷町)」より出典(続く)